

教材として英語絵本の活用 (2)

— 英語絵本の多読授業 —

昆 布 孝 子

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

English Learning via English Picture Books (2)

— English Classes by Reading English Picture Books —

Takako Kombu

Naragakuen University Narabunka Women's College

グローバル化が言われて久しい日本社会において、保育者を目指す幼児教育学科の学生にも、保育現場では英語が話せること、英語の絵本を読むことが求められてきている。実際、本学園周辺での保育園、幼稚園では英語の時間や異文化理解の時間を設定し、外国人の乳幼児も入園している。また、インターナショナル・スクールも誕生し、英語を話せる保育者が求められている。

本学科の学生には、英語が苦手とする人が多くいるので、2回生の選択科目を履修する学生はいないのが実状である。その故、英語の授業内容や方法を工夫することが必要となる。筆者は英語絵本の活用に着目し、2012年度から2014年度まで、1回生の英語基礎、英語Ⅱ応用の授業では、絵本を教材にした授業を実践した。その授業の事例と活動内容を検証する。

キーワード：英語絵本、幼児教育

1. はじめに

幼児教育学科の学生が履修する「言語」関係科目には、次のようなものがある。必須専門科目として、国語表現法、保育表現法（言語表現）、保育内容演習（言葉）、保育内容演習（表現）、絵本・お話の世界がある。教養科目として、1回生で英語（基礎）、英語Ⅱ（応用）の必須科目と2回生で英語Ⅲ（英語コミュニケーションA）、英語Ⅳ（英語コミュニケーションB）の選択科目がある。ほとんどの学生は1回生で必須科目の英語を履修するだけで、2回生では選択科目の英語は履修しない。

一方で、保育者を目指す幼児教育学科の学生の現場の実情はと言えば、グローバル化が叫ばれて久しくなり、日本の各地域で外国人と協働する社会が広がっている。それに伴い、通常の保育現場でも外国人の乳幼児受け入れが増してきている。多くの保育現場では、少子化対策として、園の生き残りをかけて、英語教育や国際理解教育を重視しはじめている。さらに、従来のクラスに併設して英語イメージン保育をする園やバイリンガル・インターナショナル・スクールも誕生している。このように、学生の将来

の職場は直接的、間接的に英語、英語教育が必要とされる現場へと変化しつつある。今後、英語を話せる、理解できる保育士が求められていくことは確実である。

学生は、選択科目となる2回生では英語を履修しないので、1回生の1年間の英語の授業で実施する内容が重要となる。職場で英語力を発揮させることを目標とした授業の内容と授業の方法を検討した。結果、保育英語検定対策のための保育現場での実用英語と、乳幼児に必須である英語絵本を使った授業を展開することに着目した。本稿では、英語絵本を使った授業に焦点をあわせて考察する。

2. 幼児教育学科の教科としての英語について

2.1 英語授業の現状と課題

本学では入学時に、新入生の英語力を問う筆記試験を実施している。その結果をみると、入学者数が伸びても、成績中・上位（100点中50点以上）の生徒数はあまり変わらず、下位層の数が少し増えている。2回生が選択科目の英語を履修出来ない理由は、専門の必須履修科目数や教育実習の関係で時間的に厳しいからだと言える。

幼児教育学科の学生のための授業なので、実用保育英会話と保育英語検定用対策の授業を実施している。多くの学生は絵本、美術造形、音楽に関心が高く、また知識もあるので、英語絵本の授業を実施することにした。今年度の学期当初に、学生に絵本についての聞き取り調査をした結果、約7割の学生が「はらぺこあおむし」「スイミー」を読んでいた。絵本は日本語で読んでいて、英語がオリジナルであることは知っていなかった。学生は英語で読みたいと望んでいるが、自分には無理だとあきらめてもいる。

好きな英語絵本を英語で読む、そんな授業を実施することを学生に伝えた。授業の実施に際して、理解し易くするためのベースとなる理論をここで紹介し、それを基にした授業実践事例をあげ、授業活動を検証する。

2.2 視聴覚教材の活用する授業について

高校時代の訳読授業や文法中心の英語の授業が、学生の英語嫌いの原因となっている。現に中学時代は楽しかった言う学生がいる。それは内容が易しかっただけでなく、授業では実物、写真、絵カード、CD、DVDと様々な視聴覚教材を使用したことで、英文を容易に理解できたとも言える。

視聴覚教材の活用については、エドガー・デールの「経験の円錐」の考えを参考にして、実際に授業を組み立ててみた。デールによれば、視聴覚教材を、何時、どのように活用するか検討し、意識的に抽象レベルを上下させることが学習の難易度を下げる。そこに意識を置き、授業を組み立てることが重要である。

2.2.1 エドガー・デールの「経験の円錐」

エドガー・デール（アメリカの教育学者）が⁽¹⁾「経験の円錐」⁽²⁾（1954=1957 Audio-visual Methods in Teaching）を提唱している。円錐の底辺に具体的で個人的な「直接的・目的的体验」を、頂点に最も抽象的で汎用的な「言語的象徴」を置き、その間に具体性・抽象性を順に並べ、経験の層を配置し経

験から概念に至る過程に視聴覚教具・教材を位置付けている。経験の円錐を下から「具体性」なものから、円錐の上の「抽象性」へ上り、また反対に上から下へと下りながら経験を深め、感性的認識のレベルから、理性的認識レベルへと上ることで、人は理解（学習）が簡単になると説明している。

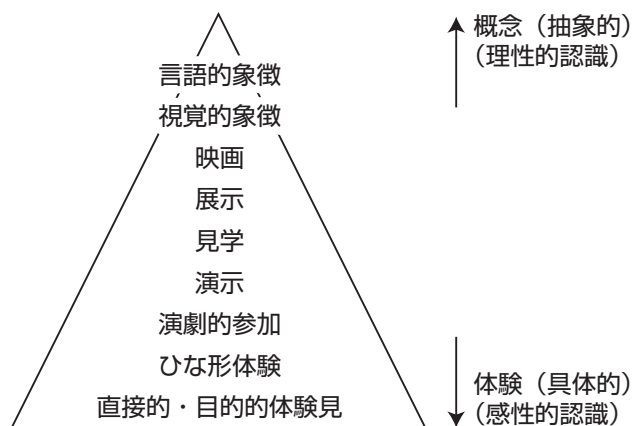


図1 デールの「経験の円錐」⁽²⁾

2.3 英語の定着をはかるための活動について

簡単に学べて、単調でない授業をするためには視聴覚教材の活用が重要である。学んだ英語を確実に定着させ、英語を話すことができる授業をするためには、明確な意図を持った言語活動をするのが重要である。

確実に記憶に留めるためには、授業での言語活動では、視聴覚以外にも別の感覚を駆使し、シチュエーション（場面）を持って学習することが重要である。子どもの言語習得過程を見れば、一つの方法で言葉を理解し、記憶するのではなく、遊びを含め日常の多様な活動の中で自分の知能、能力を発揮させながら言葉を獲得し、言葉を学び続けていることがみてとれる。

母語とは異なり、外国語（英語）学習では、疑似体験的な活動を作り、その中で言葉を使うことが大切である。授業では、英語絵本を読む、聞く、見る、時には書くなど、多様な感覚を刺激する活動を展開していることで、知識が記憶になる。各自が持つ知能、能力を確実に発揮させる授業を考えるには、ハワード・ガードナーの「多重知能理論」(MI理論)が参考になる。このMI理論を紹介し、この理解にもとずいて英語絵本授業で実践した活動を検証する。

2.3.1 ハワード・ガードナーの「多重知能理論」について

1983年に、ハーバード大学の心理学者ハワード・ガードナーが“The Theory of Multiple Intelligences”) MI理論(多重知能理論)⁽³⁾を提唱した。彼は従来のペーパーテストで知能を測るのではなく、テストによる知能以外の多様な知能に目を向けた。ガードナーは、人はそれぞれ1組の多重知能を持っており、1組の中に8つ程の知的活動の特定分野を持ち、その才能を大いに伸ばすことができると提唱した。その8つの分野は次の通りである。①言語的知能 ②論理数学的知能 ③空間・芸術的知能 ④身体運動的知能 ⑤音楽的知能 ⑥対人的知能 ⑦内省的知能 ⑧博物館的知能。

3. 英語絵本を使った授業について

3.1 英語絵本を授業に活用する意義

授業で英語絵本を使用する理由は以下の通りである。絵本は保育現場で言語教材として使用できる。絵本を用いることにより、絵本の持つ力を借りて、日常の出来事や日常の場面を英文だけで理解することが可能になる。また、本の絵が理解を容易にさせる。したがって英語が苦手な学生も、絵本なら、容易に英語を理解することができる。

絵本は、どの国でも、日々の保育活動で欠かせないものである。絵本を通して幼い子どもは正しい語彙、文法を学べる。保育者は、子どもの年齢、興味関心、学習意欲の度合いを配慮して、絵本の読み聞かせをし、また行事の参加への導入としても絵本を使用している。

保育者を目指す幼児教育学科の学生が英語学習の教材に英語絵本を使用するのは特別なものではない。授業で英語絵本を教材にすることで、学生は多くの英語の語彙を学び、豊かで使用頻度の高い日常英会話、異文化を学ぶことができる。

3.2 絵本と動物について

子どもが最初に手にする絵本には動物絵本が多い。また動物が主人公にして、日常の活動やしつけを教える動物絵本もある。人間が主人公の本であれば、ジェンダー、人種、宗教など別の問題要素が生まれたりして、本の選択が困難になる。

2013年の甲南女子大大学での講演会「— 子どもに生命を開く動物絵本 — 矢野智司（京都大学大学院教育学研究科教授）」⁽⁵⁾ は、次の話で始まった。

「ピーターラビット、ミフィー、ぐりとぐら、絵本にはウサギ、クマ、ネズミと言った多くの動物たちが登場します。不思議なことには、人間が主人公の絵本よりも動物が主人公の絵本のほうが圧倒的に多いのです。なぜこれほど動物が絵本に描かれているのでしょうか。子どもが動物絵本を通して成長することを考えるとき、子どもには動物を必要とする深い理由があるのでしょうか。…」

実際、筆者が今まで使った絵本はほとんどが動物絵本である。次項では、動物の名前を覚えることから主人公の動物の複雑な感情表現までを学習できる動物絵本を紹介する。

3.3 英語絵本を使った授業事例

“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?” を最初の英語絵本授業で使用し、この授業では動物の名前を簡単な問答形式で学習する。英語授業の実践を紹介し、その活動を検証する。

3.3.1 “Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?” 授業報告

(1) 絵本、絵カード（動物、色）と文字カードを用意する。

絵カードを使って英語単語を教える。授業では、必ず学生一人一人に英語を読ませ、学生の発音をチェックする。次に絵カードを黒板に貼る。その状態で、文字カードを利用して、音読させる。文字が読めないなどの問題を生じた場合、必要に応じて音声（母音、子音、アクセント）に関する規則を指導

する。最初は黒板の絵カードを見せしながら、絵カード順に文字カードを読ませ、次に文字カードを繰り返し、文字だけで読めるようにする。次に、配付したプリントの単語をリピートさせた後に、学生個人か、又はペアで単語を読ませる。(座席はペアが組めるように決めている)

絵本は、広い教室の関係で、最初はプロジェクターで大写しにして、ゆっくり見せながら、筆者が英文を読む。次に学生にリピートさせる。絵本を手を持って英文を読む練習もする。最後に、配布した英文のプリントを使って英文の読みを練習する。学生はプリントの英文をペアで読む練習をし、発表する。

(2) 文章を直接的指導方法で指導する

この絵本での文型は3つあり、次の、① “What do you see?” ② “I see a red bird looking at me.” ③ “That’s what we see.” である。

まず、“see” と “look at” の違いを理解させる。

単語で使用した絵カードを提示して、筆者が “What are you looking at?” と質問し、学生に “I’m looking at a bear.” と答えさせる。次々とカードを見せながら、何度も練習を重ね looking at を定着させる。

次の文に移る。“What do you see in this room? “I see two doors. I see a blackboard in the room.” の文型を使って、教室の中で目につくものを3つ英語で言わせる。正しい発音をしているかチェックしながら、練習させる。個人の活動参加状況を把握するために、学生全員を立たせてペアで練習をさせ、言い終えた組から座らせる。その後で、各ペアで発表させ、Q&A を正確に言えているか確認する。次に絵カードを数人に渡す。カードを見ている学生Aに、“What are you looking at?” と聞く。学生Aが “I am looking at a bird.” と言えば、筆者が “A san is looking at a bird.” の文を、次に “I see A san looking at a bird.” の文を言って、学生A の状況を説明し、新しく構文を導入し、口頭練習をする。

日常会話では良く使用する構文である “That’s what we see.” は文法説明をすると難しいので、実際に見せる。筆者が鞆の中から様々なものを取り出し、それら全部を指して、“This is what I had in my bag.” とこの構文を導入する。次に学生に “What did you have this morning?” と尋ね、朝食の内容を1つ1つ言わせ、食事内容をまとめて、“That is what I had this morning.” と学生に言わせ、次々と練習する。絵本を読んだ時点で “That is what we see.” の文章を違和感なく言え、理解できていた。

(3) 音声面の指導について

この絵本はCD が付いているので、授業でも CD を使って英文を聞き、また、歌を歌う、チャンツをした。CD に合わせチャンツをする学生が、リズムが取れていない、あるいは英文を読んでいてシャドウイングができていない時には、英語を聞く、話すための基本的知識(音の弱声化、音の脱落、音の連続)を指導した。

保育者として子どもの前で、読み聞かせをすることを考えて、聞く力、読む力を伸ばすことに力を入れた。授業では、個人、ペア、グループでのリーディングをし、クラス発表をさせ、常に正しく読めているかチェックすることに注意を払った。

CDは大変役に立つ道具であるが、CDなくてもYouTubeを検索すれば、絵本の歌や朗読を聞く事ができる。時にはYouTubeで作家自身の絵本朗読をしているのを聞くことができる。授業とは別のバージョンの歌も聞けることがあるので、個人が学習するのにYouTubeの活用を勧めた。

3.3.2 授業“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”をMI理論で検証

2.3.1で述べたMI理論の観点から“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”の授業活動を検証する。英語の絵本活用マニュアル(2010外山節子監修 コスモピア編集部)では、MI理論を基にして独自の円グラフ⁽⁴⁾を作成し、具体的な英語学習での活用を提案している。そのグラフでは、円の中心部にMI理論の8つの多重知能と活動の種類、その外側円周に英語活動案(指導案)が記載されている。各知能を使った具体的な英語授業活動を参考にして、英語絵本“Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?”の授業を検証する。

(1) 英語を読む、聞く。意見を言う、書く。感想を発表する。

- 毎時間、英語の単語や英文を音読した。
- CDで、話や英語の歌を聞いた。教師の後に読む、ペアで読み、CDの英文に続いて読んだ。
- 授業終了10分前に、単語(動物・色)をBingoの枠に記入させ、ゲームをする。
筆者が読みあげた語彙を学生がマークしてゲームを進める。結果学生は、スペルを書く、正確な聞き取りができる。
- 感想は学期末にまとめて学生に書かせ、次年度への参考とした。

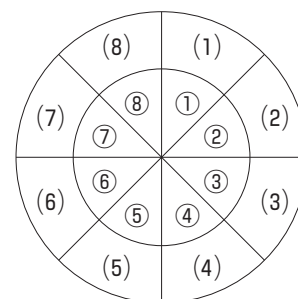


図2 MI理論グラフ
数字は内円は2・3・1、
外円3・3・2を参照

(2) 話の流れ、次のページを予測する。反対語を見つける。周知のことと関連付ける。

- 問答形式の文なので、繰り返しの中で文の流れを読みとり、次ページを予測しながら読んだり、聞いたりできた。
- 反対語はない。作者の独特の色使いで描かれた動物で色を学習した。
- この本でないが、各国の宗教、文化の背景知識が必要な絵本がある。

(3) 絵からの情報を読み取る。単語・文を利用して絵カードをつくる。色を塗る。

- カードはなく、オリジナルの英語絵本を作らせた。

(4) 聞いた内容や理解しことを身体で表現する。指示通り動作する。

- この本ではそれはなかった。

(5) 歌う。チャンツをする。手拍子や身体でリズムをとる。楽器演奏をする。

- CD付き絵本で、CDに合わせて身体でリズムをとり、歌を歌い、チャンツをした。
- 手拍子や机を叩きながら、単語をジャズ・チャンツし、文をチャンツした。

(6) ペアワーク、グループワークをする。全員で1冊の本を読む。全員で1冊の本を輪読させる。

- 単語、文章を読む時は、互いに助け合いながらペアで読んだ。
- 問答形式の絵本なので、ペアで読む以外に、数人のグループで輪読した。

(7) 感想を考える。自己と比較する。

- この本ではしなかった。

(8) 色、サイズなど類似点など区別分類をする。絵本に登場した動物とは別の動物で独自の絵本を作る。

- 他の動物や人物を使って、オリジナルの英語絵本を作り、鑑賞した。

3.4 授業で使った、使う予定のそのほかの動物絵本と学生の感想

図書所有の動物絵本、個人が所有する動物絵本を1回生の授業で使用した、使用予定の英語絵本を紹介する。授業で使用する時点で注目したこと、および学生の感想と何歳児が相応しい本と思いますかという問いへの答えを交えて作家別に紹介する。

(1) Story by Bill Martin & Illustrated by Eric Care

- ① Brown Bear, Brown Bear, What Do You See ? : (2007 Henry Holt and Co.)
 - * 問答形式の繰り返しの文で構成。9匹の動物の名前、色、先生と子供達の単語と3文型を学習。
 - * 絵が印象的で、1～3歳児に相応しい。
- ② Baby Bear, Baby, Bear, What Do You ? : (2007 Henry Holt and Co.)
 - * 10匹の動物の名前と動物の動作を学習。
 - * 問答形式で、繰り返しの文でリズム良い。3～5歳児が相応しい。

(2) Story & Illustrated by Eric Carle

- ④ Today is Monday ! : (1999 Puffin Books)
 - * 曜日と食べものを学習。最後の英文では、音読（リエゾン、音の無声化）を指導した。
 - * 文型が繰り返して覚え易く、リズムある本。絵も歌も楽しい。3～5歳児に相応しい。
- ⑤ From Head to Toe : (1999 Puffin Books)
 - * 1匹の名前と動物の特徴的な動作を学習。
 - * 問答形式で絵のきれい。身体を動かし「これできる？」と聞きたくなる本。3～5歳児に相応しい。
- ⑥ The Very Hungry Caterpillar : (1999 Puffin Books)
 - * 約7割の学生が日本語で読んでいた。印象に残る1冊だと答えた学生が一番多かった。
 - * オリジナルが英語だと知らなかった学生もいた。英語で読む良さを感じた。
 - * 絵と文章が合っていて、可愛い絵本。3～5歳児に相応しい。

(3) Story by Rod Campbell

- ⑦ Dear Zoo ! : (1982 Macmillan Children Books)
 - * 8匹の動物の名前と特徴（形容詞）を学習。ペットを入れた箱の状態を表す名詞（危険等）を学習。
 - * 絵と文がマッチした教材に良い。難しい単語がある。3～5歳児に相応しい。仕掛け絵本なので、1～2歳児も良い。
- ⑧ Noisy Farm : (1982 Macmillan Children Books)
 - * 16匹の動物の親子の呼び方を学習。住む場所や鳴き声を学習。

*繰り返しが多く、仕掛け絵本。3～5歳児に相応しい。

(4) Story by Mikiko Nakamoto, Pictures by Ryouko Fujikawa

⑨ My Pet : (2000 Apricot Picture Book)

* 7匹の動物の名前、その性質を学習。

* 歌があり楽しい。文(仮定法過去)が難しい。3～5歳児に相応しい。

(5) Story By Robin & Inge Hyman, Pictures by Yutaka Sugita

⑩ The Hippo Who Wanted to Fly : (1973 Evans Brothers Ltd)

* 3匹の動物の名前を学習。叶わない願いをするが、自分の住む世界を気づく語。

* 絵が大変印象的である。5歳児に相応しい。今後読みたい。

(6) Story & Pictures by Leo Lionni

⑪ Swimmy : (1991 Dragonfly Books)

* 小魚と大きな魚の本。主人公スイミーを通して、仲間と協力し生き延びる話。

* 学生の印象に残る絵本の第3位。後期読みたい本の第1位。

⑫ A Color of his Own : (1991 Dragonfly Books)

* 1匹のカメレオンが自分を語る話。

* 難しかったが、季節や自然の変化などと、内容が良かった。小学生が相応しい。(2013年度使用)

(7) Eileen Christelow

⑬ Five Little Monkeys Jumping on the Bed : (2004 Clarion Books)

* 6匹の猿の家族と医者の話。ベッドで遊ぶ子猿が、ベッドから次々に落ち、頭を打つ。その都度、母猿が医者に電話し、叱られる話。

* 数が覚えられる楽しい。2割の学生が難しい。絵と文がマッチし可愛い。3～5歳児に相応しい。

(8) Dick Bruna

⑭ Miffy : (2014 Simon & Schuster UK Ltd.)

* Miffy家でのMiffyが誕生の話。キリスト誕生を思わせる話の流れである

* 絵は可愛い。物語は少し難しい。5歳以上が相応しい。

(9) Celestino Piatti

⑮ The Happy Owls : (1965 Ernest Benn Ltd.)

* 鳥や昆虫の名前を学習。ケンカする家禽と幸福について話すフクロウの話。

* 絵が大変素晴らしい。内容が良いので後期読みたい本。5歳児以上が相応しい。

(10) Story by Margaret Wise Brown, Pictures by Clement Hurd

⑯ Goodnight Moon : (1982 revised edition, Haper Collin Publishes)

* 家の中にあるものを学習。ロングセラーの絵本。

* 単純な繰り返しの本。1～5歳児に相応しい。

(11) By Franz Brandenburg, Illustrated by Alik

⑰ I Don't Feel Well !

(1977 Hamish Hamilton ※1976 Greenwillow Books under the title I wish I was Sick,Too!)

- * 7匹猫の家族と親戚の病気を気遣う時の日常会話を学習。
 - * 後期に使用予定。日常の出来事、病人への気遣いと嫉妬心を上手く表現している。
4. 5歳児以上に相応しい。

(12) Nancy Carlson

- ⑱ I Like Me! (1988 Puffin Books)
- * 太った女性豚の物語。どんな時でも前向きで、自分を励ます話。
- * 5歳児、中学生に相応しい。平易な文章で内容は意味深い。(2013年度使用)

(13) Mary Murphy

- ⑲ I like it when … : (1997 Harcourt Books)
- * 自分の好きな時のことを語る絵本。日常生活を表す英語表現を学習できる。
- * 単純な文型で自分の好きなことを表現できる本。4, 5歳児に相応しい。

4. おわりに

絵本が持つ大きな力とオリジナル絵本作りやカード作りの活動で授業に変化を持たせたことにより、英語の授業が楽しくなった。今年度は読む絵本の数を増やした。学生は数冊の英語絵本を読み聞かせができるようになってきている。今後は、絵本の読み聞かせの効果を高めるための工夫として、英語の歌や手遊びを先に導入させるなど、絵本の発表の組み立て方を具体的に指導する必要がある。また、絵本を多読するようになったので、学生が簡単に授業での自己評価できるように、各絵本でのMI理論を基にした活動リストを作る必要がある。

筆者は、2014年8月に英国を南から北へ、北から南へと旅をした。湖水地方でベアトリック・ポッターさんのピーター・ラビット、オックスフォードで不思議の国のアリス、ハートフィールドでクリストファー・ロビンと熊のプーさん、ロンドンでパディントンベアやハリー・ポッターに出会った。それぞれの話が描かれた時代、風土が異なるが、良い作品は年月を越えて、国を超えて人々を魅了する力を持っていると実感した。英語学習には良い絵本、良く知られた物語を読むことから始めることを勧めたい。

5. 謝辞

絵本を使った授業を実施するにあたり、乳幼児の保育教育の専門知識と豊富な体験をお持ちの先生方より、適切な助言と惜しみない協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。「絵本・お話の会」で絵本や読み聞かせについての知識や方法を懇切丁寧にご指導頂きました永富先生、保育現場の実状を教えてくださいくださった卒業生の皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) エドガー・戴尔 (1954-1957) Audio-visual Methods in Teaching [1957西本三十二訳『戴尔の視聴覚教材』日本放送協会]
- 2) エドガー・戴尔『戴尔の視聴覚教材』 図1 デールの「経験の円錐」より筆者作成
- 3) ハワード・ガードナー (1983) The Theory of Multiple Intelligences [2001 松村暢隆訳『MI: 個性を生かす 多重知能理論』新曜社]
- 4) 外山節子監修 (2010) 「英語の絵本 活用マニュアル」コスモピア P26-27
- 5) MI 理論の円グラフ「英語の絵本 活用マニュアル」を参照し、図2は筆者作成
- 6) 矢野智司 (2013) 「子どもに生命を開く動物絵本」甲南女子大学国際子ども学研究センター講演会 資料より

参考文献

- 1) 柳田邦男 (2002/5.6月) 「人生の後半に知る絵本の深み」別冊ステラ ラジオ深夜便
- 2) 大島英美 (2011) 「声を出して読む英語絵本～初めてのリードアラウド～」中央公論新書
- 3) 外山節子監修 (2010) 「英語の絵本～活用マニュアル～」コスモピア
- 4) 大島英美 (2011) 「声に出して読む英語絵本」浅海社
- 5) 末口静枝 (2005) 「0歳から英語ができる本」リヨン社
- 6) 松居 直 (1981) 「私の絵本論」厚徳社
- 7) 吉村真理子 (1998) 「絵本の匂い 保育の味」小学館
- 8) 森久保仙太郎 (1995) 「絵本の世界」偕成社
- 9) 高杉自子 (1976) 「言葉を育てる」小学館
- 10) 岩淵悦太郎・村石昭三 (1966) 「幼児言語教育法」東京書籍
- 11) 村井潤一 (1987) 「言語と言語障害を考える」ミネルヴァ書房
- 12) 坂野 登 (1990) 「ことばの学習と記録」雑誌「言語」
- 13) 片桐ユズル (1983) 「一般意味論セミナー」くろしお出版
- 14) 伊東治巳 (1998) 「カナダのバイリンガル教育」溪水社